

やわやわと

「やわやわと」は
能登の言葉で
「ゆっくり・急がず」



発行:日本障害フォーラム(JDF) 能登半島地震支援センター

TEL 070-3288-2303 FAX 050-3457-6915 E-mail jdfnotoshien@gmail.com

<支援スタッフの声を紹介します>



今回第3クールに参加させていただきました。私なりに感じたこと1月震災後、寒い冬を越し、耐え忍んで来られた能登の方々。大きな地震で傷んだ悪路条件の中、生活も物流の遅れでスムーズに行かず厳しい生活が伺える事ができました。復旧工事が遅れている様子を目の当たりにし、町全体が閉ざされている様な風景を感じました。私達が今出来ること「よりそう・助け合う・喜び合う」こと。震災で開かなくなった玄関を、何とか開けることができ、久しぶりに玄関が開いた時の喜びの声「久しぶりに開いたな」。家の中の粗大ゴミを片付けて一緒に喜び合った「うわ～きれいになったわ～」という声に寄り添いながら支援が取り組めたと思いました。まだまだ町全体の復旧工事が遅れている状況ですが、今私達にできる事は被災者の方々の心に寄り添いながら復旧支援に取り組むことが必要だと思いました。(斎藤)



<障害当事者も支援スタッフとして参加しています>

第3クール(5月26日～6月1日)、難聴障害者として支援活動に参加させていただきました。さて皆さん「難聴者」と聞いてどんなイメージをお持ちでしょうか?「手話でコミュニケーションする人かな」といったところでしょうか。でも残念ながら私はあまり手話は得意ではありません。実は、あまり馴染みのない言葉かもしれませんが、「要約筆記(写真)」を必要とする難聴者なんです。



もっぱら支援を受ける側の難聴者がどうして災害ボランティアを?と思われたかもしれませんね。そこには2つの狙いがあります ①支援する障害者として耳マークストラップ(写真)下げながらの前向きさをアピールしたいということと、②この活動中、地元石川県要約筆記者と全国要約筆記研究会の協力を受けて支援活動を展開し、広く要約筆記の認知と普及活動をこれからも継続していく意気込みをアピールすることの2つです。障害のある人もない人もともに助け合う共生社会の実現を目指したいですね。(園田)

〈作業所支援を通して感じたこと〉



事業所にも地震の爪痕が残っている中、利用者様も職員も”出来ること”を続けていらっしやいました。何もすることがないと、余計なことを考えてしまうのは誰にでもあることです。しかも、大きな地震を経験し、今までと全く違う生活を余技されている状況下では、より一層不安が強くなってしまふのは当然のことです。そうならないためにも、出来ることを続ける。言うのは簡単ですが、続けていくことは想像以上に難しいことだと思います。コロナで色々な制限があり、やっと新しい形での日常に慣れてきた頃に発生した大地震。住んでいた地域は壊滅的なダメージを受け、またしても非日常の世界に引きずり込まれてしまった。今までのような生活を続けるのは困難な中で、少しでも日常を取り戻せる時間を作り、そして心の安定につながれば…。それが利用者にとっては”作業(仕事)”であり、職員にとっては”支援(仕事)”なのだと実感しました。(山中)



〈お弁当、カレーおいしくいただきました〉



石川で、フードロスをなくす取り組みをされている「いしかわ食わかち ai」の米澤さんが、事務所にお弁当とカレーを持ってきてくれました。この方は、第一クールで入った松本さんと同じサッカーチームにいたそうですが、今回の私たちの取り組みに共感されて何かお手伝いできることはないかと訪ねて来てくれました。傷がついていたり、曲がっていたりする野菜は売り物になりにくいので、そんな食材を作業所で使えないかということも現在、模索中です。今回のクールでも、本当にいろんな方が来られて、私たちの取り組みを支えてくれています。(鴨井)



〈 支援を支える募金の協力をお願いします 〉

下記銀行口座または郵便振替口座に払込をお願いします。

○ 銀行振込:ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキュウ)店 当座:0750236
口座名:日本障害フォーラム災害支援金

○ 郵便振替口座:00120-2-750236
口座名:日本障害フォーラム災害支援金

ホームページ URL と QR コード

https://blog.canpan.info/jdfshiencenter/category_5/1



【JDF能登半島地震支援センター】 〒926-0175 石川県七尾市和倉町カ 18

TEL 070-3288-2303 FAX 050-3457-6915 E-mail jdfnotoshien@gmail.com